

平成27年度第2回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成27年8月10日(月)
午前11時から午前11時30分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
 - (1) 出席構成員
天童市長 山本 信治 教育委員長 佐藤 通隆
教育委員 大貫 紀代子 教育委員 本田 孝之
教育長 水戸部 知之
 - (2) 説明のため出席した者の職氏名
教育次長 中島 伸一 学校給食センター所長 東海林 明夫
学校教育課長 長岡 佳孝 生涯学習課長 武田 文敏
教育総務課課長補佐兼庶務係長 村山 裕二
 - (3) 事務局職員の職氏名
総務部長 武田 淳 総務課長 高柳 茂治
総務課課長補佐兼行政係長 熊澤 輝
総務課行政係主査 丸子 正彦
- 4 欠席者
教育委員 阿部 真由美
- 5 議事録署名員
教育長 水戸部 知之
- 6 次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 協議・運営事項
ア 天童市の教育等の振興に関する大綱について
イ その他
 - (4) 閉会

7 会議の内容

発言者	発言内容
高柳 総務課長 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 佐藤教育委員長あいさつ</p> <p>3 協議・調整事項</p>
山本市長	<p>ここからは、私が議長となり、進めていきます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただく。</p> <p>水戸部教育長よろしくお願ひします。</p>
水戸部教育長	<p>はい。</p>
武田総務部長 熊澤課長補佐	<p>(1) 天童市の教育等の振興に関する大綱について (天童市の教育等の振興に関する大綱(案)について説明)</p>
山本市長	<p>ただ今の説明について、皆様の方から御質疑があればお願ひしたい。</p> <p>(質疑なし)</p>
山本市長	<p>(2) その他</p> <p>次はその他となるが、お持ちの方がいればお願ひしたい。</p> <p>(長岡学校教育課長が挙手)</p> <p>長岡学校教育課長。</p>
長岡学校教育課長	<p>(天童市いじめ防止基本方針の内容(案)及び今後の策定スケジュールについて説明)</p>
山本市長	<p>ただ今の説明について、皆様の方から御質疑があればお願ひしたい。</p>

水戸部教育長	今月中に専門委員会を開催する目処は立っているのか。
長岡学校教育課長	現在各職能団体から推薦いただいている方の本人の承諾、いわゆる意思確認をしており、合わせて8月あるいは8月を少し過ぎた辺りで日程調整をしているところである。委員となる6人は大変忙しい方達だが、できるだけ8月中に開催したいと考えているところである。
山本市長	他にありませんか。
本田委員	専門委員会の委員の専門分野が、法律、医療、心理、福祉、教育とのことだが、それ以外についてはどうか。
長岡学校教育課長	条例では5つの職種が示されているが、委員の人数は6人以内となっている。教育関係を2名にして、6名を想定して手続を進めているところである。
山本市長	他にありませんか。
佐藤教育委員長	<p>先程の教育大綱に関することになるが、13項目あるわけだが、内容はこれで良いと思う。ただ、知・徳・体のバランスを確立した、社会力を身に付けた子ども達を育てるためには、現状学校だけでは難しい状況にあり、地域・家庭と一緒に育っていく環境を整備しないと駄目であると思う。そういう中で思うことは、天童市の場合は公民館の活動が県内でもトップクラスの充実した活動をしており、この中にも書いてあるわけだが、是非今後実際の施策展開の中で公民館と協同した、子ども達を育てる取組を是非していただきたいということである。</p> <p>もう1つは、11番目にふるさとの歴史講座を開催するとあるが、子ども達には是非天童の歴史・文化を知ってもらうような色々な施策をすることが大切である。その中でも、織田藩の学訓（養正館学訓）は、知っているだけでも子ども達にとって非常に良いことだと思うので、天童市内の子どもであれば全部そらんじれるようになると良い。天童市の歴史も教えていくことが、将来子ども達が天童に定着する、郷土愛を育むことにつながるようになると思う。これは記載されてい</p>

山本市長	<p>るが、実際の具体的な展開の中で考慮して、やっていただきたいと思う。</p> <p>他にありませんか。</p>
水戸部教育長	<p>まちづくり懇談会でも話題で出されることもあるが、今天童市の12小学校のうち8校が適正規模になっていない中で、複式学級が生まれたりと、色々な意味で小規模化に伴うデメリットが問題化されている。また、学校がなくなるということについても、不安を抱えているという地域の実態がある。</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略会議で示されたとおり、地域の実情に応じた魅力ある、活力ある学校づくりを進めなければならないが、地域との関わりの中で教育を進める、地域の文化との関わりの中で子ども達の教育を進めていくということが、その特色ある学校をつくっていく大切な働きであり、特色ある学校づくりを通して他校との差別化が図れたり、あるいはそれぞれの学校の個性が発揮されたり、あるいはその学校のアピールポイントができるのではないかと考える。</p> <p>そういうことによって活力ある学校ができるのではないかと考えているが、いずれにしても積極的に地域の自然体験、あるいは社会体験、あるいは地域の人との関わりを通してこれからの教育を進めていかなければならないという一面とともに、小規模校でもまち・ひと・しごと創生総合戦略会議の中で、高度な教育環境を揃えるということで国の支援があり得るとことが示されているので、これからの情報化・国際化社会に向けた教育活動の高度化を進めていく必要がある。地域に根ざした教育とともに、少し高度な、例えばICTを活用したような教育とか、あるいは外国語に特化したような取組をこれから推進していくことによって、活力ある学校になるのではないかとと思う。</p> <p>いずれにしても、12校中8校が適正規模でないことと同時に、少子化が進んでいることへの地域の不安は、子ども達の活力にも非常に心配される面もあるので、そういった面への対応を進めていく必要があると思う。統廃合を進めることになると、地域コミュニティの衰退が加速されるので、そ</p>

山本市長	<p>うならないよう、小規模校ならではの学校の良さをいかすような教育がこれからは必要になると思う。</p> <p>他にありませんか。</p>
本田委員	<p>何度か明治大学を訪問し、学生も天童に来ている状況であるが、この地域にいた時だけの色々な考えにプラスして、大学生が明治大学で蓄積したものを色々な場面で活用していけるようなものを全体の中で考えてもらいたい。私が見聞きしている施策にプラスしてかなりあるのではないかと思う。うまく活用できれば、表向きだけではなくて、本当の意味で良いものができると思ったところである。</p> <p>先日教育委員の大会で鶴岡市に行った時の話だが、地域活性という意味では、他所から来た人を使うことで自分達ではできないような大きなことができるのではないか、とつくづく感じたところである。せっかく良い連携があるので、是非教育だけでなく色々な場面で使ってもらえればと思う。</p>
大貫委員	<p>先日の教育委員の大会で、「クモの糸」（QMONOS、Spiber株式会社の製品）の生誕に関わっている人が、学生の時の関わった小学生で、大学を経て、今自分の地元に戻ってその仕事をしている方が2人いるという話を聞いた。天童でも宮城浩蔵賞をもらった子ども達が天童に戻ってきて、どういう形で力を発揮してくれるかということに皆が注目していると思う。そこら辺にも光を当て、賞をもらった子ども達が素晴らしい結果が出ているということを出して、子ども達の目標になるような活動になっていけばすごく良いと、この間の講演を聞いて思った。せっかく天童も良いことをやっているのだから、ポッと見えてくるものがあれば良いのではと感じたところである。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。天童の教育大綱についてですが、特徴的なのが、「天の童」のところが一番特徴的なのだが、今回の教育大綱の中では、特に12番目の芸術・文化、13番目の生涯スポーツという区分が加わっている。</p> <p>その中でも、教育長が言ったとおり、天童も複式学級が目前に迫ってきているが、このままの状況だと将来的に複式学</p>

<p>水戸部教育長</p>	<p>級が増え、あるいは学校の統合も含めて話が出てくると思う。しかし、そういうものを逆手に取って天童の教育が他所と違って成果をきちっと出している、平成29年度から複式学級となる予定の学校があるので、大胆な施策を施して成果を挙げていく必要があると思う。そういうことも含めて、教育委員会の仕事になるか、総合教育会議の仕事になるかは別として、特に学校の経営者と言われる校長先生方に力を発揮してもらえようことも教育大綱の中にあって然るべきである。</p> <p>前に葛飾区の本田<small>ほんでん</small>小学校を見させてもらったら、そこではタブレットを使った教育が実施されていた。子ども達が非常に多く集まってきて、膨れ上がって抽選しなければならないくらいの事態になったというような話を聞いて、そのようなことを思い切ってやると、この辺でもできる可能性があるのかどうかと考えたところである。1校だと1学年で20人くらいしかいないし、それほど費用が掛かるわけでもないのので、タブレットを全員が持つということは非常に簡単である。そのような教育を実施し、そこで成果を挙げれば大変面白い学校ができると思う。そういうことについては、先程お話ししたとおりに国の方でも細やかに支援していくことを示しているのので、それらをいかしていくということ、実証的に進めていくことは非常に大事なことである。</p>
<p>山本市長</p>	<p>この度教育振興のためにいただいた御寄付も活用しながら、タイムリーな施策を実行し、子ども達の能力も含めて結果を出すということだと思う。結果責任もあると思っている。複式学級になった場合でも、それに合わせた環境をつくっていくということが大事であると思う。正に今縮小社会であり、周辺から人が少なくなるといつも言われるが、少なくなった学校でこういう成果が出たということになれば、また考え方も変わってくるのではないかと思う。だから、それを結果で示していくということが、行政の立場とすれば非常に大事なことであると思う。では、その結果とは何なのかというと、教育である。教育そのものだと思う。健やかな子どもとか格好の良い言葉もあるが、教育で成果を挙げていくということがすなわち認めてもらえることだと思う。</p>

	<p>色々と課題があるようだが、皆さんから様々な御意見をいただいた中で、本市の教育の具体的な成果を挙げられるような、スタートの教育大綱にしていければ良いと思う。</p> <p>5 閉会</p>
--	--